2025 年 3 月 8 日(土)13:30-16:00 (於:龍谷大学大宮学舎清和館 3 階ホール) 宗教倫理学会公開講演会(猪瀬優理)

現代日本社会における宗教とジェンダー

―公共圏と親密圏のあいだ―

0. 本日3月8日は、「国際女性デー」

伊藤セツ(2023)『国際女性デーの世界史 – 起源、過去、現在、未来 – 』御茶ノ水書房 起源は社会主義運動における女性参政権要求運動にある。日本は 1923 年山川菊栄。 1977 年第 32 回国連総会で「国際デー」に決定(日にちは定めなかった)

国連が女性の日を定める意図は、権利と平和を守り、植民地主義、人種差別に反対 するための闘いを強めようとすることにあった。

2025年は「北京宣言と行動綱領」の30周年(1995年北京世界女性会議)

本日、皆さんと考えたい問い

宗教はこれからの社会において、どのような「はたらき」を果たしうるだろうか。

I.「ジェンダー秩序」とは?

江原由美子(2021、初版 2001)『ジェンダー秩序 新装版』勁草書房 猪瀬優理(2023)「宗教とジェンダー変わりゆく社会における宗教の役割」伊原木大祐・竹内綱史・古荘匡義編『3STEP宗教学』昭和堂 佐藤裕(2018)『新版 差別論ー偏見理論批判』明石書店

現在のジェンダー秩序は、性の二分法、異性愛主義、男性優位・中心で男女の間の「性支配」関係を前提とする。多くの宗教はそれを生成・維持・正当化してきた。 しかし、性二分法と性支配のない「ジェンダー秩序」もあり得るのではないか。

2. 「近代家族」とは?

落合恵美子(2022、初版 1989)『増補新版 近代家族とフェミニズム』勁草書房 ベティ・フリーダン(荻野美穂訳)(2024)『女らしさの神話 上下』岩波文庫 イプセン(原千代海訳)(1996)『人形の家』岩波文庫

近代家族とは、「核家族」のユニットに人びと(特に、女性と子ども)を閉じ込め、人間としての権利を奪う、不平等・不公正が内包された集団である。

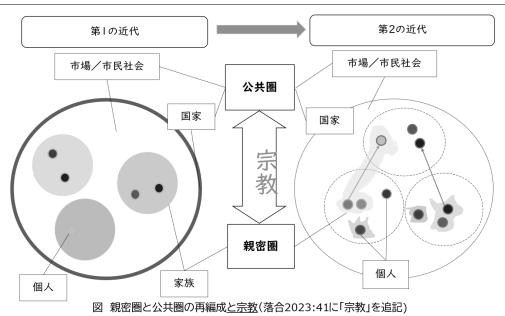
3.「公共圏と親密圏のあいだ」とは?

落合恵美子(2023)『親密圏と公共圏の社会学』有斐閣ハーバーマス(1999、原書1973、初版1962)『公共性の構造転換』未来社(細谷貞雄・山田正行訳)アリエス(1980、原著1960)『〈子供〉の誕生』みすず書房(杉山光信・杉山恵美子訳)バダンテール(1998、原著1980)『母性という神話』ちくま学芸文庫(鈴木晶訳)チョドロウ(1981、原著1979)『母親業の再生産』新曜社(大塚光子・大内菅子訳)キテイ(2010)『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』白澤社(2023年に新装版)ファインマン(2003、原著1995)『家族、積みすぎた方舟』学陽書房(上野千鶴子監訳)Ruddick(1989) Maternal Thinking: Toward a Politics of Peace, Boston: Beacon Press

2025 年 3 月 8 日(土)13:30-16:00 (於:龍谷大学大宮学舎清和館 3 階ホール) 宗教倫理学会公開講演会(猪瀬優理)

宗教は、公共圏と親密圏の双方にまたがり、次世代を社会につなぐはたらきをする可能性がある。「宗教 2 世」問題は、「近代家族」の中で行われる母親業の困難性(あるいは、「子どもとして生きる」ことの困難性)のなかにあるのではないか。

宗教は「公共圏」と「親密圏」のあいだをつなぐ「はたらき」を果たしてきた、 といえるのではないだろうか?



4. 「ケアの倫理」とは?

岡野八代(2024)『ケアの倫理』岩波新書

Smith, C., and Adamczyk, A. (2021), Handing Down the Faith: How Parents Pass Their Religion on to the Next Generation, Oxford University Press

「社会の変革/維持」にたいして宗教は力を持っている。

「坊守」(牧師夫人)の例は、寺院(教会)運営を含めた「ケア」全般を「親密圏」(家族)にあるものとしてきた宗教組織の「ジェンダー秩序」が問われている。

「宗教 2世」の例は、主に母親が、子どもをこの社会(公共圏)に適応する=「よりよく育てる」ための手段として、宗教を活用しようとした例の一つと見られる。

全体的な社会構造が有している問題性(例えば家父長制構造)を増幅する/あるいは 悪用する装置となる宗教集団が存在している。

「子ども」はその中で真っ先に犠牲となる「脆弱な(傷つきやすい/傷つけられやすい)存在」である。

「ケアの倫理」は、基盤となる社会構想自体の変革の必要性を指摘している。

宗教は、現状は社会変革を抑止する方向に働いている例が目立つ。

宗教は、不公正を解消する変革を促す「はたらき」を果たしうるのだろうか?